

行政視察報告書

参加議員	木下靖、工藤健、奈良祥孝、竹山美虎
調査期間	令和5年3月29日（水）～令和5年3月30日（木）
調査先 及び 調査事項	① 岩手県盛岡市 ・盛岡市中央公園 BeBA TERRACE ・盛岡市木伏緑地 「Park-PFI」について ② 岩手県盛岡市 盛岡市斎場について

視察概要

- 調査先① 岩手県盛岡市 BeBA TERRACE 運営協議会
- 調査事項 「Park-PFI」について
- 調査内容

調査日：令和5年3月29日（水）

調査先対応：株式会社 Gugusdada 担当者

株式会社もりおかパークマネジメント事業開発リーダー

1 盛岡市中央公園 BeBA TERRACE

【調査報告内容】

盛岡市のPark-PFI制度を活用した中央公園整備事業として「BeBA TERRACE」プロジェクトが令和3年2月に承認され、令和5年春に一部オープン。

この事業は、居心地の良い空間、新しくて懐かしい建築物による風景、今までにない都市公園コンテンツを創出し、人々が日常的に集まる空間の創出と資産価値向上を事業目的としている。

「BeBA TERRACE」は、遊びと学びがあふれる場所。幅広い世代が楽しみ、つながり、学びあう場を目指している。ふらりと立ち寄って、岩手山を見ながらひとりで本を読んだり、親子で遊んだり、時には考え事をしたり仕事をしたり。誰もが心地よくいられる(Be)場所(BA)になるように動き出した。

事業者によると、新型コロナウイルス感染症の影響で、事業としては少し遅れ気味となっているが、順次整備されていく。施設は、あそびの広場やまなびの広場を囲むように、モリオカえほんの森保育園、子ども図書館「みどりのゆび」、フリースクール、てつびんの学校、カフェ・洋菓子店・ヘアサロンを配置した学び棟、飲食棟、園芸・生産者直売所などが建築され、BeBA TERRACEは、新しい仕組みで運営する開かれた公園施設として地域の皆さんと一緒に育てていきたいとしている。

【所感】

一番驚いたのは、盛岡市の職員だった株式会社 Gugusdada 代表が、令和2年3月に市役所を退職し今の仕事をしていること。その背景には、役所だけでは立ち行かないまちづくりについて、民間事業者も巻き込みながら、よりよく暮らせる盛岡をつくりたいという熱い思いでした。今では、全国を飛び回って、講演や事業のコンサルティングをしているということであった。

この都市公園の整備は、昭和50年代から始まったが、平成になっても終わらない。令和の時代になって、地域の人たちからは、「区画整理の時に10年間で終わらせるという約束だったが、半世紀たっても終わらない。変わらない。」との声もあり、今回の事業が始まったことを喜んでもらっているということであった。

公園に工場(南部鉄器)等、あれはだめ・これもだめと国交省からNGを出され、市にいと考えられない。市だけでは前に進めない。そこで、教育サービス関係として、体験学習スペース・学校、障害者対策施設等を配置しながら様々な都市公園課題に挑戦し、都市公園法の無理を1つ1つ解決できるように頑張っているということであった。

2 盛岡市木伏緑地

【コンセプト】

- ・盛岡の玄関口である開運橋と旭橋の間にある「木伏緑地」で水辺界隈の生活者になろう

【整備内容】

- ・木伏緑地界隈で生活することにより、豊かな日常が得られるよう、新たに公衆トイレ、芝生広場と飲食店エリア(コンテナ型ショップ)、シャワーブースを整備。
- ・北上川河川敷と一体的に活用することを目指し、居心地のいい場所でおいしいものを食べたり、ヨガやジョギング、キャンプや水辺を散歩したりと、寄り道したくなる場所とする。

【施設】

- ・公衆用トイレ(男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ)
- ・飲食店(コーヒースタンド、地産地消レストラン、カフェレストラン、ジェラート店、ジンギスカン専門店、大衆料理店、焼き鳥専門店、クラフトビール専門店、フライドポテト専門店)

【調査報告内容】

JR盛岡駅北口から徒歩4分。目の前には一級河川、北上川が流れ、緑と空そして岩手山への景色が広がる。開運橋と旭橋の間に位置する、北上川沿いの約200メートルの帯状の公園が木伏緑地である。

盛岡市木伏緑地整備は、周辺の地価下落を受け、地域活性化と地元経済の活力や再生を目指し、河川管理用道路の使用も含めて整備することとし、ウッド

デッキの設置や入れ替え制で飲食店経営者を育てることも目的の一つとしている。ただの公園整備ではなく、民間主導で投資と回収を行い、雇用環境の整備も目指すとしている。特に、「障がい者に働く場を。障がい者が運営する飲食店。」として、現在、ビジネスモデルにもなっている。

【所感】

「行政は出ることしか考えないが、収入・回収が大事。現在価値と付加価値。将来の展望や評価の仕方を変える。」という言葉が強く印象に残った。

青森市でも学ぶべき点がたくさんあり、将来を展望しつつ前に向かうまちづくりに挑戦することが重要だと強く感じた。



視 察 概 要

■ 調査先② 盛岡市斎場やすらぎの丘

■ 調査事項 盛岡市斎場について

■ 調査内容

まずは青森市と盛岡市の事情が違う点を明確化する必要があるとあり、盛岡市では火葬時に香典等の受付(青森市での通夜・葬式)をすること。そのため入口ホールが受付用に広く設計されている。また待合室前の通路(パブリックスペース)も同様(実質待合室)に広く設計されている。

1 事業の経緯

【旧盛岡市火葬場の状況と課題】

- ・火葬が込み合う日は予約等のニーズに対応しきれない場合があり、施設の規模不足や狭隘化が顕著なため、火葬炉や諸室の増設が必要となった。
- ・駐車場の拡張と予備スペースの確保が必要となった。
- ・環境問題への関心が高まっており、ダイオキシン類の排出規制や省エネなど環境負荷の低減に向けた取り組みが必要となった。
- ・将来需要への対応等を踏まえると、容量的に飽和状態にあった。

【事業方針の決定】

- ・市が合併特例債を活用して建設資金を調達し、設計、建設、運営の各業務を民間事業者が運営する、DOB方式を採用するとともに、指定管理者制度を導入し、包括的・一体的に整備・運営を行うため、PFI法に基づかない民間事業として実施する方針を平成19年5月に定めた。

【事業の具体化】

- ・公募型プロポーザル方式により企業グループから企画案を募り、優先交渉権者を決定することを、平成20年6月に公表し、4グループから企画提案書が提出された。

2 事業の内容

【基本方針】

- ・人生の終わりにふさわしい施設づくり
- ・周辺環境に配慮した施設づくり
- ・人にやさしい施設づくり
- ・環境にやさしい施設づくり
- ・災害に強い施設づくり
- ・管理運営のしやすい施設づくり

【事業期間】

- ・平成24年の供用開始を前提に、令和13年度までの20年間

【その他】

- ・施設構想、事業費及び財源、債務負担行為の設定、主な事業契約、民活導入に期待する定性的な効果、民活導入に期待する定量的な効果について確認した。

【事業への評価】

- ・年度別火葬件数、市民評価について確認した。

